新刊紹介

○新支那論

文學博士内藤虎次郎著
東京博文堂發行　定價貳圓

本書は支那の現狀の由て來れる文化的意義を、湖南博士獨特の透徹した史眼で考察したもので、本年七月五日渡歐前日の序文を冠し、今回尙此戰爭の勃發する二月以前に稿を了られた。恰も彌我が國民に此戰爭の結果が當面の問題となつた際に此の好著が公になつたのは我々の手を額にして喜ぶ所である。本書の内容は支那對外關係の危險、支那の政府及社會組織、支那の革新と日本、自發的革新の可能性、支那の國民性とその經濟的變化、支那の文化問題の六章から成り立ち、附錄として南蕃小論がのせてある　博士は世界最古の文化民族が無類の長命を享けた故に支那文化は、西洋は勿論日本などに比しても霄壤の差たる爛熟の境に入つたもので、而かも其の永い歷史には屢外來民族が侵入して其新らしい血が混じて若返つた事實を認められた。現に東西の列國に在つて將來に屬する種々の段級は既にすべて登盡して此の上何處まで往くか、支那の歷史からも推測が出來す、また西洋の歷史は尙そこまで屆いてゐない。將來の支那の安靜を獲る一途は長髮賊の時に曾國藩の下に淸朝を救ふた鄕國といふ地方の自治團體を基礎とした必要から成立つた組織によるに在るといふ意見であるらしい。日支の關係に關しては日本商人の支那に於ける活動は英國商人買辯（コンプラドル）組織の貿易と全く趣を異にして内地に入り込んで直取引をなしつゝあるもので、此の經濟的平和的關係が過去に於ける新來民族の血によつて若返つた同じ効果が見られるものとされたのも亦た面白い。本篇は獨り日本の外交當局者や所謂國民外交を唱ふる人士の是非會得せねばならぬ所たるのみならず、又た博く支那の眞の憂國の人士に讀ませて博士の公平無私の意見を服膺して將來の方針を樹立させたいものである。附錄とした支那藝術の世界的位置の一篇は支那民族の藝術生活の意義を明にしたもので支那の文化を達觀した博士に非ざれば把住し能はぬ名論で、東西の藝術を論じた膚淺のものを一掃するに足ると想はれる。（小川）

○シーボルト先生渡來百年記念論文集

長崎市役所

寛永鎖國以來昌平久しく桃源の夢にうたゝねの我國民に警鐘を與へたのは實はフイリップ・フランツフオン・シーボルト先生であつて近世文化の基礎を我國に確立したのは實に先生の賜でありました。二十八歲の壯齡を以て出島の和蘭商館の醫官として渡來の後七十一歲の高齡でなくなられたまで四十餘年の間我國民を啓發された恩人である、そこで大正十二年八月十一日の百年紀念日に當り、記念會をつくつて廣く天下の贊助を得、本年四月二十七日に其記念式を長崎市の鳴瀧に擧げた、その記念事業としてこの集が出たのであるが、吳醫學博士の醫學者としてのシーボルドをはじめとして村上博士、白井博士などの趣味深い論文がのつてゐる、翻版八九頁圖版鮮明誠によき記念著述である。（M生）